

# がんの親をもつ 子どもへの サポートグループの お知らせ

クライム  
(CLIMB®プログラム)



J.CLIMB

自治医科大学附属病院では、**がんの親をもつ子どもへのサポートグループ（CLIMB®プログラム）**を実施しています。

がん治療中のお母さま／お父さまのお子さまが対象のグループです。

同じような状況にある子どもたちが集まって、みんなで一緒に絵を描いたり工作をしたり、話し合ったりしながら、自分の状況や気持ちに向き合う力を高めていくことをめざしています。そのために、CLIMB®プログラムを用いて、いろいろな職種のスタッフがお手伝いをいたします。グループへの参加にご関心のある方は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

\* CLIMB®プログラム (Children's Lives Include Moments of Bravery) とは、アメリカで広く用いられている、がんの親をもつ子どものためのグループワークです。ファシリテーターはこのプログラムを行うためのトレーニングを受けています。

## <グループについて>

- 《対象となる方》 がんの診断を受け治療をしておられるお母さま/お父さまの6～12歳（小学生）のお子さま
- 《実施場所》 自治医科大学附属病院
- 《実施日時》 2019年11月16日（土）・23日（土）・30日（土）  
12月7日（土）・14日（土）の全5回・各回110分  
午前中 10：00～12：00 くらいまで
- 《活動内容》 親子一緒におやつタイム  
子どものグループ（お話、工作・活動タイムなど）  
親のグループ（自由な話し合いなど）\*任意参加です
- 《参加費》 無料
- 《スタッフ》 臨床心理士、医療ソーシャルワーカー、看護師、ボランティア
- 《実施責任者》 稲田美和子（自治医科大学附属病院 緩和ケア部 臨床心理士）  
小松崎香（自治医科大学附属病院 看護部 がん看護専門看護師）

- グループへの参加ご希望の方には、稲田あるいは小松崎より詳しい説明と事前の面談（電話の場合もあり）をさせていただきます。どうぞお気軽にお問合せください。
- 参加希望の方は、下記の宛先にご連絡下さい。

[問い合わせ先] 小松崎 香  
(自治医科大学附属病院 看護部)

E-mail : k-komatu@jichi.ac.jp

TEL : 0285-58-7107 (がん相談支援室 月～金9:00-17:00)

## ◆子どもにとってのグループの意義◆

子どもたちは同じような経験をしている他の子どもたちと、すぐに仲良くなります。悲しくなったり怖くなったり、時には怒りを感じてしまうのも、普通のことであり、自分だけではないんだということを学んでいきます。グループでのさまざまな活動は、子どもたちが気持ちを抑え込んだり感情に圧倒されたりすることなく、気持ちを安全な方法で表現し穏やかにしていくことに役立つと思います。これまでにグループに参加された方々の声をいくつかご紹介します。



## お子さまの声

- すこうがすきだから、つくるものがたのしかったです。また行きたい（7歳）
- 人形をつかって家にもちかえて、いっしょにおしおいでねたりしている。とてもたのしかった（8歳）
- このプログラムに行って、お母さんやお父さんががんの子どもは自分だけじゃないんだと思えました。工作をしたり、らくがきタイムもたのしかったです（8歳）
- クライムでは色々な工作がとてもたのしかったです。今度、卒業生用のクライムがあったらいいなと思えました（11歳）
- 同じ様なことがあった子どもたちだから、話が分かってもらえてよかった。みんなに自分のことを言うことで自分のことを改めて知れた（11歳）
- 親の「がん」という病気についてよくわかった。スタッフの人たちやみんなと一緒にものづくり、自分が工夫して気持ちを表現したことを言ったり見せてもらったりしたことがよかったです（12歳）
- 一番最後の、お母さんに手紙を書いたのがよかった。ふだんは恥ずかしくて言えない事もいえたのでよかった（12歳）



## お母さま・お父さまの声

- 参加前と比べて顔つきがすいぶん穏やかになりました。親に何でも言ったり聞いたりして よいこと等教えていただいて、気が楽になったことが大きかったと思います。目に見えて効果もあり、本当に参加させていただけて良かったです。
- ゆっくり自分に目を向けてもらえる時間を与えていただいて、自信を取り戻したのかなと思えました。クライムでの友達は特別な友達のような感じです。
- 飛行機を使っての参加でしたが、お金にかえられないたくさんの勇気と、同じ思いで過ごしている方々と会話ができ共感でき、子どもたち以上に、私の心の穴がふさがった思いでいっぱいです（夫が治療中）
- 子どもはプログラムを重ねるごとに新たな成長がみられ、最終回の後ちょっとした事にも、私に手を貸してくれたり、とてもうれしく感じています。
- 病気のことを学ぶことで、私との関係がもっと深まったように思いますし、子どもの心 から不安が取りのぞかれ、感情の処理・発散も自分なりにできるようになったかなと 思います。愛情を持って接してくださったスタッフの皆さんに感謝の気持ちでいっぱい です。この経験は子どもにとって、とても大切な財産になるでしょう。
- 気心の知れた仲間ができました。この活動の普及定着に期待してます（妻が治療中）